

募集代理店

MIZUHO
Channel to Discovery

みずほ銀行

引受保険会社



アクサ生命保険株式会社

アクサ生命の変額個人年金保険

5年計画

保証金額付特別勘定年金特約(定期I型)付変額個人年金保険(06)
保証金額付特別勘定年金特約(定期II型)付変額個人年金保険(06)

2008年度 特別勘定の現況 (世界分散型30DI)

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用
状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.axa.co.jp/life/>

お問い合わせ先 **0120-375-193**

* 受付時間: 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および12月31日から1月3日は休業とさせていただきます。)

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント

【利用する投資信託の委託会社】 DIAMアセットマネジメント株式会社 (旧: 興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社)

1999年に第一ライフ投信投資顧問、興銀NWアセットマネジメント、日本興業投信の3社が合併して発足しました。競争力のある運用ノウハウ・人材を集集し、高品質な商品およびサービスをご提供しています。

【利用する投資信託の委託会社商号変更のお知らせ】

2008年1月1日より、利用する投資信託の委託会社であります「興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社」が「DIAMアセットマネジメント株式会社」に商号変更いたしました。商号変更に伴う投資信託の名称・運用方針・運用体制などに変更はございません。当該日以後「商品パンフレット」「特別勘定のしおり」などに記載の同社名につきましては上記のようにお読替えいただきますようお願い申し上げます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(定期I型)/(定期II型)付変額個人年金保険(06)」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約(定期I型)/(定期II型)付変額個人年金保険(06)」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要、注意喚起情報)」、「商品パンフレット」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、ファンドの資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていきますので、合計等と合致しないことがあります。

保証金額付特別勘定年金特約(定期型)付変額個人年金保険(06)

保証金額付特別勘定年金特約(定期型)付変額個人年金保険(06)

特別勘定の現況(2008年度)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2008年4月 ~ 2009年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前期末比36.22%下落の773.66ポイント(前期末は1,212.96ポイント)で終了しました。

6月初旬にかけて、米株高や円安進行を背景に一時1,400ポイント台まで上昇しました。しかしその後は、資源価格高騰による企業収益圧迫懸念などから下落に転じました。9月に入ると米大手証券の経営破綻を受けて金融システム不安が再燃し、金融市場は大混乱となり急落しました。その後は、金融不安の実体経済への波及や円高進行が嫌気される一方、各国の経済対策への期待が交錯し、安値圏で変動の激しい展開となりました。3月には一時700ポイントを割込み、バブル崩壊後の安値を更新しました。

業種別(東証33業種)では、円高・原油安等によるコスト低下期待から「パルプ・紙」(前期末比5.18%)の下落率が限定的だった一方、軟調な海運市況を背景に「海運業」(同61.35%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、下落しました。NYダウは前期末比37.95%下落の7,608.92ポイント(前期末は12,262.89ポイント)で終了しました。5月中旬にかけて堅調な推移で始まったものの、その後は米政府系住宅公社(GSE)の破綻懸念や米大手証券の経営破綻を契機に急落しました。11月以降、オバマ次期米大統領の経済対策への期待などから一時的に反発する局面もありましたが、米自動車会社の経営危機などから引き続き景気後退が懸念され、概ね軟調な展開となりました。

欧州株式市場は、下落しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比31.15%下落、仏CAC40は同40.36%下落、独DAXは同37.49%下落となりました。世界的な金融不安の深刻化などを背景に、概ね米国同様の動きとなりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、期初の金利上昇後は低下基調で推移し、当期末の新発10年国債利回りは1.340%となりました(前期末は1.275%)。

資源価格高騰による世界的なインフレ懸念を背景に金利は上昇基調で始まり、6月に一時1.9%近傍まで上昇しました。その後は、金融不安を背景とする世界的な景況感の悪化や金融緩和策の実施、4-6月期以降連続してマイナスとなった実質GDP成長率など軟調な国内経済指標を受けて、12月には1.1%台まで低下しました。期末にかけては、追加経済対策に伴う国債需給悪化懸念を嫌気した債券売りが台頭し、1.3%前後の狭い範囲で探み合いながら推移しました。

日銀は、前期末年0.5%であった政策金利を当期末までに年0.1%まで引き下げました。

無担保コール(翌日物)は前期末0.5%程度から当期末0.1%程度に水準を切り下げ推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、期後半に金利が大幅に低下しました。米10年国債利回りは期前半は4.0%前後で堅調に推移しましたが、その後米大手証券の経営破綻などを受けて投資家のリスク回避傾向が高まる中、米FRB(連邦準備制度理事会)による利下げやインフレ圧力の低下を背景とした国債買いが優勢となり、当期末は2.663%となりました(前期末は3.410%)。

欧州債券市場は、期中頃以降金利が大幅に低下しました。独10年国債利回りは7月に4.6%台まで上昇した後、世界的な金融市場の混乱に加え軟調な域内経済指標を受けて、低下の一途を辿り、当期末は2.994%となりました(前期末は3.899%)。

米FRBは、前期末年2.25%であったFF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を当期末までに年0.0~0.25%まで引き下げました。ECB(欧州中央銀行)は前期末年4.0%であった政策金利を7月に年4.25%としましたが、当期末までに年1.5%まで引き下げました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、インフレ懸念を背景に米FRBによる過度な利下げ観測が後退し、8月には1ドル=110円台まで円安が進行しました。9月以降は金融不安が再燃し、12月には13年ぶりに87円台まで円高が進行しました。期末にかけては、国内の景況感悪化を背景とした円売りから米ドルが戻す展開となりました。円は対ドルで前期末比1円96銭(+1.96%)円高ドル安の1ドル=98円23銭(前期末は1ドル=100円19銭)となりました。

ユーロ/円相場は、インフレ懸念を背景にECBによる利上げ観測が台頭し、7月には1ユーロ=169円台まで円安が進行しました。8月以降は欧州での景気後退の深刻化懸念やECBの大幅な利下げによる金利差縮小を受けて、急激に円高が進行しました。円は対ユーロで前期末比28円35銭(+17.92%)円高ユーロ安の1ユーロ=129円84銭(前期末は1ユーロ=158円19銭)となりました。

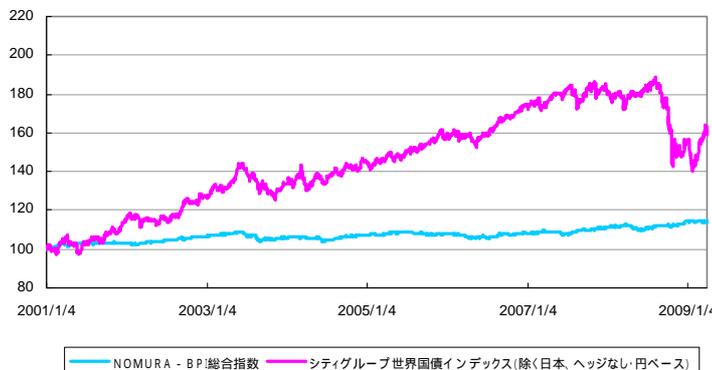
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場相値

【募集代理店】 取扱者(生命保険募集人)
株式会社みずほ銀行

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL: 0120 375 193
アクサ生命 <http://www.axa.co.jp/life/>

保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
 保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社であるDIAMアセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用方針および運用状況 [2009年3月末日現在]

特別勘定名	特別勘定の運用方針
世界分散型30DI	当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。
利用する投資信託	利用する投資信託の運用方針
DIAM アクサ グローバル バランスファンド30VA (適格機関投資家限定)	<p>当ファンドは、日本および世界の株式、債券などへ分散投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。投資対象となる各資産の合成インデックスをベンチマークとし、ベンチマークに連動する投資成果を目指します。</p> <p>基本資産配分比率は下記の通りとなります。当ファンドにおいて、外国債券の資産配分比率である40%のうち、15%相当部分を為替ヘッジします。</p> <p>国内株式：10% 外国株式：20% 国内債券：30% 外国債券(為替ヘッジなし)：25% 外国債券(為替ヘッジあり)：15%</p> <p>リバランスは、1ヵ月毎(月末時点)に基本資産配分比率に戻すことを原則とします。</p> <p>当ファンドの主なりスクとして、価格変動リスク、為替リスク、信用リスク、金利変動リスクなどがあります。</p>

特別勘定の運用コメント (2008年4月1日 - 2009年3月末日)

2008年度のユニット騰落率は16.84%となりました。先述の運用環境下、投資対象となる各資産の合成インデックスをベンチマークとし、ベンチマークに連動する投資成果を目指しました。その結果、ほぼベンチマークに連動する収益率となりました。引き続きベンチマークに連動する収益率が得られるよう、ベンチマーク構成比から大きく乖離しないよう各マザーファンドを組み入れます。

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定の ユニットプライス		騰落率(%)	
2009年3月末	76.30	過去1ヶ月	2.14
2008年12月末	77.49	過去3ヶ月	1.54
2008年9月末	86.38	過去6ヶ月	11.67
2008年6月末	92.92	過去1年	16.84
2008年3月末	91.75	過去3年	-
2007年12月末	98.82	設定来	23.69

- ・世界分散型30DIの特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2007年2月13日)を100.00として計算しております。
- ・騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	世界分散型30DI	
	金額(千円)	比率(%)
その他有価証券	14,322,113	98.8
現預金・コールローン	175,156	1.2
その他	-	-
合計	14,497,269	100.0

- ・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
- ・金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	183
有価証券売却益	-
有価証券評価益	-
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	2,561,369
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	96,760
収支差計	2,657,945

【募集代理店】 取扱者(生命保険募集人)
株式会社みずほ銀行

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL: 0120 375 193
アクサ生命株式会社 http://www.axa.co.jp/life/

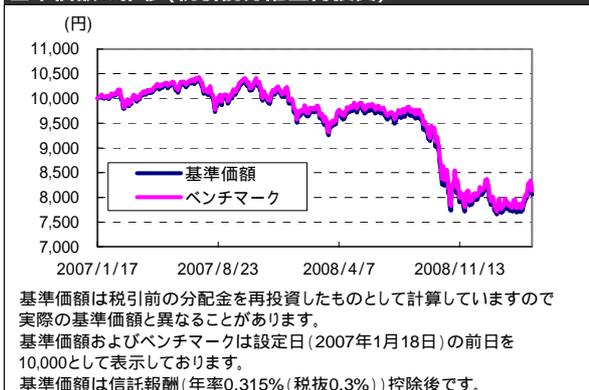
保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
 保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
特別勘定の現況（2008年度）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社であるDIAMアセットマネジメント株式会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、DIAMアセットマネジメント株式会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

<参考> DIAM アクサ グローバル バランスファンド30VA (適格機関投資家限定)の運用状況 [2009年3月末日現在]

ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を記載しております。特別勘定のユニットプライスは、ファンドの基準価額とは異なります。

基準価額の推移 (税引前分配金再投資)



騰落率 (税引前分配金再投資)

	1か月 (2009/02/27)	3か月 (2008/12/30)	6か月 (2008/09/30)	1年 (2008/03/31)	設定来 (2007/01/17)
当ファンド	2.35%	-1.00%	-10.74%	-15.02%	-19.48%
ベンチマーク	2.17%	-1.36%	-10.97%	-14.71%	-18.68%
差	0.18%	0.36%	0.23%	-0.31%	-0.80%

騰落率は税引前の分配金を再投資したものと算出していますので実際の投資家利回りと異なる場合があります。

分配金情報 (税引前)

期	分配金	分配金は1万円当たり
第1期 (2007.06.22)	0円	0円
第2期 (2008.06.23)	0円	0円
累計分配金	0円	0円

分配対象額が少額の場合には、分配を行わない場合があります。

ファンドの特色

主な投資対象 ……	主として国内株式パッシブ・ファンド(最適化法)・マザーファンド、国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド、外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンドおよび外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンドの各受益証券への投資を通じ、国内株式・国内債券・外国株式・外国債券へ投資します。
投資方針 ……	マザーファンド受益証券への投資を通じ、内外の株式および公社債を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
ベンチマーク ……	以下の各資産のベンチマークを基本資産配分比率で組入れた合成指数とします。

各資産のベンチマーク

【国内株式】	東証株価指数 (TOPIX、配当込み)
【国内債券】	NOMURA - BPI総合
【外国株式】	MSCIコクサイ・インデックス(円換算ベース、配当込み)
【外国債券 (為替ヘッジなし)】	シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)
【外国債券 (為替ヘッジあり)】	シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が独自に作成したものであり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。
 当資料はあくまでも情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
 投資信託は、実質的に株式や債券等の価値のある有価証券(外資建資産には為替リスクも)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 当資料は、DIAMアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データはあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
 投資信託は、
 1. 預金・金融債・保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 金融機関の預金・金融債あるいは保険契約における保険金額とは異なり、購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当月末基準価額・純資産総額

基準価額	8,052円
純資産総額	27,482百万円
設定日	2007年1月18日
決算日	原則 6月22日
信託期間	無期限

ポートフォリオ構成

	実質組入比率	基本資産配分比率	差
国内株式	9.7%	10.0%	-0.3%
国内債券	30.6%	30.0%	0.6%
外国株式	19.3%	20.0%	-0.7%
外国債券	39.2%	40.0%	-0.8%
現金等	1.2%	0.0%	1.2%
合計	100.0%	100.0%	-

計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより、ファンドの実質組入比率と基本資産配分比率が、一時的に大幅に乖離したり「現金等」の比率がマイナスになる場合があります。
 株式には投資証券、投資信託受益証券及び新株予約権証券を含む場合があります。
 外国債券の資産配分比率である40%のうち、15%相当部分を為替ヘッジします。

設定・運用は
DIAMアセットマネジメント 

【募集代理店】 取扱者(生命保険募集人)
 株式会社みずほ銀行

【引受保険会社】
 アクサ生命保険株式会社
 〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
 TEL: 0120 375 193
 アクサ生命保険株式会社 <http://www.axa.co.jp/life/>

保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
 保証金額付特別勘定年金特約（定期型）付変額個人年金保険（06）
リスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

- ！ ご契約者にご負担いただくこの保険の費用は、契約初期費用・保険契約管理費・運用関係費の合計金額となります。
 なお、年金種類の変更により一般勘定年金を選択された場合には、年金管理費がかかります。

特別勘定繰入前に控除される費用

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費用 ご契約の締結などに必要な費用	一時払保険料に対して 5% (例)一時払保険料1,000万円の場合、 50万円	一時払保険料を特別勘定に繰り入れる際に、一時払保険料から控除します。

据置期間中に控除される費用

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約管理費 特別勘定年金受取累計金額（既払年金累計金額）と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持などに必要な費用	特別勘定の積立金額に対して 年率2.3% (例)その日の特別勘定の積立金額が1,000万円の場合、 1日あたり約631円	毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費*1 特別勘定の運用などに必要な費用	投資信託の純資産額に対して 年率0.315%程度 (税抜き:年率0.30%) (例)その日の投資信託の純資産額が1,000万円の場合、 1日あたり約87円	特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。

年金受取開始日以後に控除される費用（特別勘定年金受取期間中）

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約管理費 特別勘定年金受取累計金額（既払年金累計金額）と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持などに必要な費用	特別勘定の積立金額に対して 年率2.3% (例)その日の特別勘定の積立金額が1,000万円の場合、 1日あたり約631円	毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費*1 特別勘定の運用などに必要な費用	投資信託の純資産額に対して 年率0.315%程度 (税抜き:年率0.30%) (例)その日の投資信託の純資産額が1,000万円の場合、 1日あたり約87円	特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。

年金受取開始日以後に控除される費用（年金の種類の変更により一般勘定年金を選択した場合）

「年金払特約(06)」により年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費*2 年金のお支払いや管理などに必要な費用	年金額に対して 1.0% (例)年金額が100万円の場合、 1万円	年金受取日に、責任準備金から控除します。

- *1 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの費用は運用資産額や取引量などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。なお、運用関係費は運用手法の変更、運用資産額の変動などの理由により、将来変更される可能性があります。
- *2 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【その他の留意事項について】

受取総額保証金額（定期型）

受取総額保証金額の最低保証は、据置期間（5年～17年）と特別勘定年金受取期間（3年～15年）の合計期間が20年である場合に限られます。積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。

【募集代理店】 取扱者（生命保険募集人）
株式会社みずほ銀行

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL: 0120 375 193
アクサ生命「AXA」 <http://www.axa.co.jp/life/>